

「4年2組環境会議を開こう」

| | | | |
|-----------------|-------------------|----------|-------------------|
| 氏名 | 白澤 拓也 | 学校名 | 茨城県 つくば市立上郷小学校 |
| 担当教科等 | 全教科 | 対象学年(人数) | 4年 2組(22名) |
| 実践年月日もしくは期間(時数) | 2022年11月～12月(5時間) | | |

【実践概要】

| | | |
|---|--|--|
| 1. 実践する教科・領域： つくばスタイル科(総合的な学習の時間) | | |
| 2. 単元(活動)名：エコ生活のすすめ～ゴミを減らそう～ | | |
| 3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ：「4年2組環境会議を開こう」 単元目標：自ら考えたごみ削減を実践したり、他学年に提案を発信したりしたことをふりかえり、比較検討し、新たな方策を考える。 関連する学習指導要領上の目標： (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で探究課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 | | |
| 4. 単元の評価 規準 | ①知識及び技能 | 環境にやさしい生活について興味をもち、進んで課題を追求しようとしている。 |
| | ②思考力、判断力、 表現力等 | インターネット、図書館、インタビューなどの様々なメディアの活用と体験学習を通して環境問題について理解を深め、自分たちの環境に対する提案を考えている。 |
| | ③学びに向かう力、 人間性等 | 考えたごみ削減を自ら実践したり、家庭や地域に提案を発信したりして、地域社会の一員として環境改善に貢献する。 |
| 5. 単元設定の 理由・単元の 意義 (児童観、教材観、指導観) | <p>【単元設定の理由】 児童はさまざまな環境問題に興味をもち、身近なエコ活動を実践してきた。しかし、学校生活などの自分に関係する部分以外での環境改善の実践までには至っていない。 本単元では SDGs について考え、視野を広げることで、現在自分たちが行っているエコ活動を多角的に考察できるようにすることをねらいとしている。</p> <p>【単元の意義】 本単元では社会科単元の「住みよいくらしについて」の学習を基盤とし、地球環境への圧迫やごみ処理にかかる経済的損失を防ぐために、学校や家庭で出されるごみを減らす工夫と実践について考えることで、地球市民の一員としての自覚を育む。</p> <p>【児童／生徒観】 本学級の児童は、昨年度から SDGs という言葉は耳にしているが、自分たちや今行っているエコ活動との関わりについては理解できていない。理解はできていても、自分たちのエコ活動に関係づけて考えることはできていない。このことから、SDGs について深く考える機会を設けることで、環境問題を解決するための方策を考え、行動することのできる力を育むことが大切であると考え。</p> <p>【指導観】 これらの活動を通して「地球市民の一員としての意識」を高めることが重点となる。その際に、自分の住んでいる地域と他の国を比較する活動や、自分の地域の現状について調べる活動を行うことで、世界で起きていることは他人事ではなく、自分の身近な課題とも関係があることに気がつくようにする。そして、実際に解決するための方策を考え、誰に向け</p> | |

て発信するのか、何が自分たちにできることか、検討することで課題解決のために実際に行動できるようにしていく。

6. 単元計画(全5時間)

| 時 | 小単元名 | 学習のねらい | 学習活動 | 資料など |
|---|----------------------|--|---|--|
| 1 | SDGsについて考えよう。 | <p>自分の価値観を相対的に捉えられるようにする。</p> <p>日本と諸外国の繋がりを体感する。 SDGs への理解を深める。 SDGs を身近に感じられるようにする。</p> <p>多様な考えがあることに気がつくことができるようにする。</p> | <p>○アイスブレイクとして、「部屋の四隅」「ものはどこから?」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の四隅 「SDGs を理解している。」 「正直自分には関係ない。」 「いつでも SDGs を意識している。」 ・ものはどこから? 取ったカードの国を地図上で探す。 <p>○SDGs に関する動画を視聴する。</p> <p>○ダイヤモンドランキングを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs について、自分の重要だと思う順番を考え、プリントに書き込む。 ・ワールド・カフェ形式で考えを共有する。 <p>○学習をふりかえる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・部屋の四隅「ものはどこから」カード ・SDGs CLUB ・ダイヤモンドランキング |
| 2 | 友達と協力してSDGsについて考えよう。 | <p>世界には多くの課題があることに気がつけるようにする。 協力して活動することで、問題を解決できることに気がつけるようにする。</p> <p>課題を解決するための方法を多角的に考えられるようにする。</p> | <p>○アイスブレイクで「世界が100人の村だったら」を行う。</p> <p>○SDGs17番目の項目「パートナーシップで目標を達成しよう」を体感するためのカードゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレードオフカード トレードオフカードに対して、グループに配られたリソースカードを用いて、課題の解決方法を考える。 <p>○学習をふりかえる。 自分たちの身の回りのリソースについて考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「世界が100人の村だったら」 ・トレードオフカード |
| 3 | 多文化共生について考えよう。 | <p>自分たちの住んでいる地域も多文化社会であることに気がつくことができるようにする。</p> | <p>○イメージマップを行い、世界についての認識を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップ A4の白紙に5分で世界地図を書く。 その後グループで意見を共有する。 <p>○エスコラ・オプション、茨城 NPO センターコモンズで撮影した写真を使用して、フォトランゲージを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスコラ・オプション 写真を見て自由に話し合い、自分たちの生活と比べる。 ・茨城 NPO センター・コモンズ 写真から多文化共生するための取り組みについて、気がつけるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップ ・教師国内研修で撮影した写真 ・フォトランゲージ |
| 4 | 食品ロスについて考えよう。 | <p>カードゲームをすることで、楽しい雰囲気を始められるようにする。</p> | <p>○アイスブレイクとして、シェアアンドサルベージをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェアアンドサルベージ 食材を使用して調理する過程を疑似体験することで、意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・シェアアンドサルベージ ・教師国内研修で撮影した写真 ・ワールド・カフェ |

| | | | | |
|---------|-----------------------|--|--|-------------------------|
| | | 食品ロスや食料自給率、フードライフについて知る。 自分たちにできることを考えられるようにする。 | ○アジア学院で撮影した写真からフォトランゲージを行い、感じたことをワールド・カフェ形式で共有する。 ・アジア学院 写真から食料自給やフードライフの考え方に触れる。 ○自分たちにできることを考える。 | |
| 5 本時 | 4年2組 環境会議 を開こう。 | 自分たちの身の回りにもリソースはないか考えることで、より柔軟な発想を促す。 活動を振り返り、よりよいものに改善しようとする。 前時までの学習内容をもとに、多角的に考えられるようにする。 | ○アイスブレイクとして、トレードオフカードを行う。 ○各班でこれまでの活動の振り返りをワールド・カフェ形式で意見交換をし、比較検討する。 ○自分たちにできるゴミを減らすための方法を新たにグループで考える。 | ・トレードオフカード ・ワールド・カフェ |

| 7. 本時の展開(5時間目) 本時のねらい:環境にやさしい生活について興味をもち、進んで課題を追究しようとしている。 | | | |
|--|-------------------------------------|---|------------------|
| 過程・時間 | 教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態 | 指導上の留意点(支援) | 資料(教材) |
| 導入(5分) | 学習の流れを全体で確認する。 | ホワイトボードに本時の流れを掲示することで視覚的に確認できるようにする。 | ホワイトボード |
| (5分) | トレードオフカードを行う。 | 参観者の大人もグループに混ぜることで、多角的に考えられるようにする。 | トレードオフカード |
| (5分) | ふりかえりシートをもとに、各班で自分たちの活動の成果や課題を振り返る。 | 振り返りを行う際に、ゴミを減らすための活動であることを確認する。 | ふりかえりシート(学習者用端末) |
| (5分) ×4回 | 代表(店長)を1人決めて、残りの人は他の班のふりかえりを聞きに行く。 | 代表は順番で行うことで、それぞれがグループでの活動を自分事として捉えられるようにする。 | |
| まとめ(5分) | それぞれの班で次のゴミを減らすための活動について検討する。 | 自分たちの活動の改善点を見つけられるように、どのような意見をもらったか、確認しながら考えられるようにする。 | |
| (5分) | 次回、自分たちでどのようなことをするのか、各班に決めさせる。 | それぞれの班で何が必要なのか考えられるように声掛けをする。 | |
| 8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ・環境にやさしい生活について興味をもち、進んで課題を追究しようとしているかを、ワールド・カフェの発言を観察し、確認する。 ・各班にあるプリントの記載事項をもとに評価する。 | | | |
| 9. 学習方法及び外部との連携 教員と学習者が対等な関係で同じ協働者となれるように、教室内の机と椅子をなくし、同じ目線で対話で | | | |

| |
|--|
| <p>きる環境にした。また、教師国内研修で学んだ「ワールド・カフェ」「フォトランゲージ」などを用いることで、問題を発見する力や事象を自分ごと化して考える力を育むことができた。</p> |
| <p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間 SDGs Week と題して、授業公開を行うことで、校内の教員に教師国内研修で学んだことや国際理解教育について周知した。 ・学校内に SDGs 掲示板や SDGs 体験コーナーを設けたり、その掲示物から考えたことをホワイトボードに書くようにしたりして、SDGs について各々理解を深められる仕掛けを校内に設けた。 |

【自己評価】

| | |
|---------------------------------|---|
| 11. 苦労した点 | <p>本学級の児童の実態として、SDGs は深刻で難しい問題という認識があり、取りかかりにくい内容という印象があったため、ゲームやアクティビティを多く用いて、楽しくSDGs に触れることができる機会を設けた。その際の教材準備に時間と手間がかかった点が苦労した。</p> |
| 12. 改善点 | <p>多くのゲームやアクティビティを行ったが、短期間で詰め込んで行ったため、児童一人一人の学びや気づきを深めることがあまりできなかったように感じた。このことから、今後は活動内容を精査し、気づかせたいことを焦点化した上で、効果的に単元に取り入れるようにしていきたい。また、授業物などは、通年使用できるものに関しては、校内研修などで計画的に作成していきたい。</p> |
| 13. 成果が出た点 | <p>教師国内研修で学んだ手法や教材を使うことで、研修での自分自身の学びを改めて認知し直すことができた。また、SDGs に関するゲームを毎時間のはじめに行うことで、SDGs に対して親しみをもちやすくなることができた。</p> <p>学校内に掲示物や交流スペースを設けることで、自分のクラスだけではなく、他学年の児童も、SDGs について考える機会をつくることができた。</p> |
| 14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど) | <p>2022年11月28日に実施したアンケート</p> <p>【問】SDGs について自分の知っていること、考えていることを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で偉い人たちが決めた目標 ・絶対に守らなければいけないきまり ・貧しい国を救うための約束 ・難しくよく分からない(複数回答) <p>2022年12月2日に実施したアンケート</p> <p>【問】SDGs Week でいろいろなことを学び、改めて SDGs について考えたことを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで解決していく目標・自分たちの生活にも関係があることに気がついた。 ・自分たちにできることをやらなければいけないと思った。 ・前よりも SDGs は難しく感じなくなった(複数回答) |
| 15. 授業者による自由記述 | <p>JICA 教師国内研修に参加し、多種多様な校種の先生方や企業の方と関わっていく中で、自分自身の SDGs への知見が広がった。また、研修で学んだことを授業や学校内の掲示物に落とし込むことで、さらに学びを深めることができ、教職員や児童への周知に繋げることができた。</p> <p>今回は、たくさんの方の協力の元、SDGs をつくばスタイル科の単元に取り組み、授業を行ったが、他教科でもSDGs を関連付けていけるように今後も試行錯誤していきたい。そして、若手教員からベテラン教員、ICT 機器の使用が得意な教員、苦手な教員、すべての人が、気軽に取り組むことができるような授業作りを心がけたい。</p> |

参考資料:

- ・World's Largest Lesson Part 2 (Japanese dubbed with subtitles)
https://vimeo.com/329776098?embedded=true&source=video_title&owner=43292288
- ・「ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら<第 5 版>」認定 NPO 法人開発教育協会(DEAR)
<https://www.dear.or.jp>